

図 1. Chronic Hepatitis with Toxicodermia

A.T. 22yr ♀

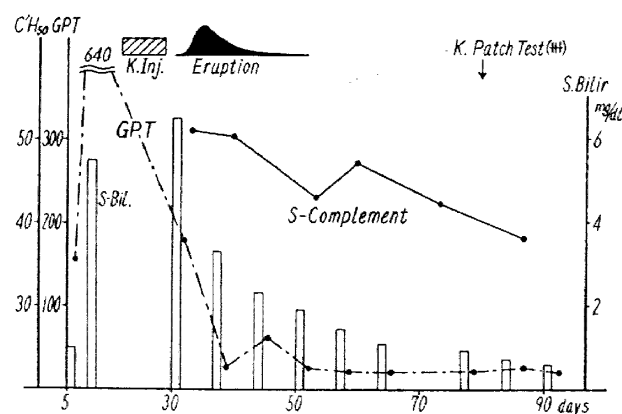
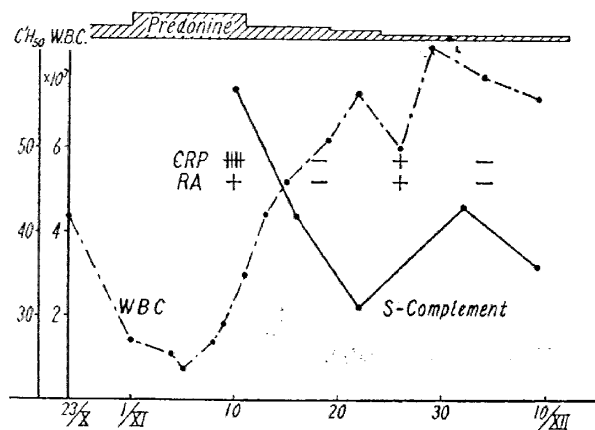


図 2. Agranulocytosis T.K. 22 yr ♂



11. かき打ち皮膚炎

広島大学皮膚科

矢村卓三, 黒瀬浩郎

われわれは、広島県のかき養殖業者に一種の職業病と考えられる皮膚疾患が発生している事実をみとめ、仮りに「かき打ち皮膚炎」と命名して観察している。

広島湾を中心とした広島県下一円の海岸部は古くよりかきの産地として知られており、全国一の収穫量を誇っている。

かき殻の一部をくぐり中味のかきをとりだす作業を「かき打ち」と言い、この作業に従事する人を「打ち子」とよんでいる。「打ち子」の大多数は女性であり、その数は県下におよそ7000ないし8000名と推定される。

この「打ち子」の中に、俗に「汐カブレ」とよばれる皮膚疾患があり、5年ぐらい前から急に増加してきた。これは主として左手にみられ、前腕から手背、指背にかけて、まれには顔面に、強い掻痒感をともなう紅斑をきたし、水疱あるいは膿疱形成をみる。病変はとくに毛嚢に一致して著明であり、湿疹化の傾向を示すものもすくなくない。

われわれは、これを接触皮膚炎と考え、一種の職業性

皮膚疾患とみなして原因の追求を進めているが、原因と考えられるものは、かき殻および中味のかき、かき筏やかきひびに用いる竹の類、かき殻に附着するホヤ、ゴム手袋ならびにナイロン製軍手などである。ホヤエキス（鳥居薬品）による貼布試験では現在のところまだ陽性例を得ていないが、ゴム手袋のゴムによる貼布試験では陽性例をみとめている。

以上の結果より、従来俗に「汐カブレ」とよばれてきた疾患は接触皮膚炎であり、その原因としては、かき殻に附着する「ホヤ」をうたがってきたが、最近得たデータより考えて、ホヤよりもむしろ、かき打ち作業に用いるゴム手袋あるいはナイロン製軍手の方が抗原の可能性が強いのではないかという印象をうけるに至った。

また、この接触皮膚炎が Allergic のものであるか、あるいは primary irritant によるものであるかという問題に関しては、その判定はきわめて困難であるが、今後、組織学的、免疫化学的その他の手段を用いて検討を加えてゆきたいと考えている。